

JLMS の復活について

080606



JLMS の復活について

私たちはJMLSが、いずれ日本のトップカテゴリーになる時がくると確信しています。

現在、日本で最も盛んな自動車レースは「SUPER GT CHAMPIONSHIP SERIES (SGTC)」ですが、SGTCは、レース自体は盛況ながら運営方針に興業色が強く、自動車レースそのものについての確たる理念とビジョンに乏しい為に、かなり即物的で変則的なレギュレーションが運用されています。

その為、継続性に重大な疑念を払しょくできませんが、現状、日本のほとんどのレース関係者がSGTCに参与しているような状況ですから、万一のSGTCの破たんの影響は致命傷になりかねません。

だから、次の手を打っておくべきだと考えていますが、私たちは、それにはJMLSが最適だと思っています。



'07 SUPER GT CHAMPIONSHIP SERIES FORMULA NIPPON

→ 表示の大きさは、おおむねの入場者数を表しています。

日本の自動車メーカー各社のルマン進出も具体化しつつあります。

日本のビッグ3は、それぞれルマンへの関心を高めており、特に、F1で低迷を続けているHONDAとTOYOTAは、F1の幕引きとルマンへの切り替えのタイミングを図っているところですし、NISSANもルマンへの関心は並々ならぬものがあります。

これらの車両が登場すれば、当然、地元で活躍させたいのは当然で、ビッグ3のLMP1のワークスマシンが競い合えば、当然、SGTCとは比較にならないビッグイベントになることは間違いありません。

NISSAN

HONDA

TOYOTA

日本には、JLMSに参戦したいチームがたくさんあります。

現在のSGTCは、実質的には自動車メーカーのワークスによる戦いであり、ワークスマシンを入手できる環境にある一部のチームだけの戦いになっています。しかし、日本には、資金力のあるアマチュアチームも数多く存在し、現状では、彼らはやむなくSGTCの下位カテゴリーであるGT-300に参加していますが、きっちりとした形でJLMSが開催されるようになれば、当然、そちらに参加するようになるでしょう。

下記は、参加の可能性のあるプライベートチームとマシン

Team GOH	JIM GAINER	MOON CRAFT
Racing Team	Racing Team	Racing Team / Constructor
ARTA	JLOC	KTR (HANKOOK)
Racing Team	Racing Team	Racing Team
Tokai University YGK	TOKYO R&D	SARD
Racing Team / Engine Supplier	Racing Team / Constructor	Racing Team
KONDO RACING	M-TEC	DOME
Racing Team	Racing Team / Engine Supplier	Racing Team / Constructor
5ZIGEN	NOVA	NAKAJIMA RACING
Racing Team	Racing Team	Racing Team
TOM' S	TEAM LE MANS	CERUMO
Racing Team	Racing Team	Racing Team

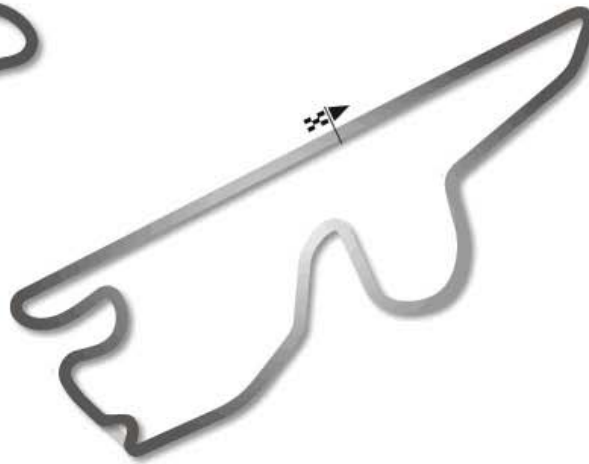
復活の条件

最低でも、年間3回の開催が必要です。

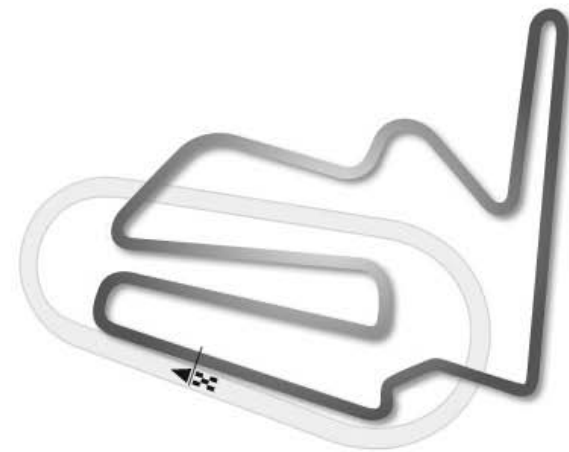
あるカテゴリーのレースが成功する為にはワークスの戦いも一つの要素ではありますが、それを基礎部分で支えるのは多くのアマチュアチームの参加が必須です。JLMSの場合、マシンの購入は比較的容易ですから資金力のあるチームには参加しやすいレースになると思いますが、マシンやスペアパーツの購入など高額な投資が必要となりますから、当然、その投資に見合う参加回数を求められるでしょう。その最低線は、国内での3回の開催であると考えています。



SUZUKA



FUJI



MOTEGI

ACOの主催または後援のレースであることが重要です。

ルマンを中核に、LMS と ALMS を展開し、近い将来、JMLS をベースに OLMS (ORIENTAL LEMAN SERIES 勝手に付けた名前ですが) に発展させれば、世界をネットワークするメガイベントに成長することでしょう。そのためには、いまからしっかりとしたビジョンと戦略の基に計画を進める必要がありますが、JLMS を復活させるならば、当初より、将来の OLMS への発展拡大を前提にしっかりとした運営体制を構築してから取り掛かるべきです。

OLMS = ORIENTAL LEMAN SERIES

自動車メーカー／サーキットとのネゴシエーションが必要不可欠です。

日本の大規模サーキットはほとんどが自動車メーカーの所有となっていますから、あらゆる面でこの両者の協力を取り付けておく必要があります。昨年、本件に関して日本の自動車メーカー各社を訪問されてお解りだと思いますが、日本の自動車メーカーの場合、通常、最初からもろ手をあげて賛成と言う事はまずありません。そのような自動車メーカーの特質を知り尽くした人材が時間をかけて粘り強い交渉を続ける必要がありますから、この人選が最も重要です。

成功への理想のシナリオ

1ビッグイベント+2サポートイベント+上海

当初は、ACOが直接的に開催するメインイベントを「JAPAN LEMAN 2009」等とし、間接的に管理する「JAPAN LEMAN SERIES 第1戦鈴鹿」等を2戦ほど開催し、参加したい人は上海にも参加できるという形がベストだと思われます。チャンピオンシップはこの4戦とすることも考えられます。



トップチームの招聘

少なくとも最初の2年間くらいは、この年に1回のビッグイベントに、ルマンに参加するトップチーム（AUDI, peugeot 等）を招聘したいものです。



ルマン参戦へのパスポート

旧J LMSでもうたわれていたルマン参戦へのパスポートは日本のチームには魅力的ですが、この参戦権を目指して、外国チームが参加してくる可能性も考えられます。

国内の参加チームの確保

海外からのビッグチームの招聘も日本の自動車メーカーの参戦も必要ですが、それだけではレースが充実しません。それらを下支えするアマチュアチームの存在があってこそその繁栄だと考えますので、国内チームの参加をを促進しなければなりません。前に述べたように、参加したい/参加の可能性のあるチームは少なくないと思いますが、SGTCのチームや車両の誘致もレースの彩にも有効ですから、特別なカテゴリーの設置も検討したいところです。

具体的な進め方

主催の主体者は？

安定性の面からも信頼性の面からも、全てのレースをサーキットの主催で開催してもらうのが理想ですから、基本的には自動車メーカーがらみでサーキットに働きかけるのが正攻法です。しかし、段階的な手段としてはその他の方法もあるので、いくつかの方法論を考えておく必要があるでしょう。

例えば、年1回のビッグイベントはACOが後援するサーキットの主催とするものの、他の2回のサポートイベントは、ACOの公認イベントとしつつも、一般のレース主催団体で開催するという方法などです。

スケジュール／デモンストレーション・ラン

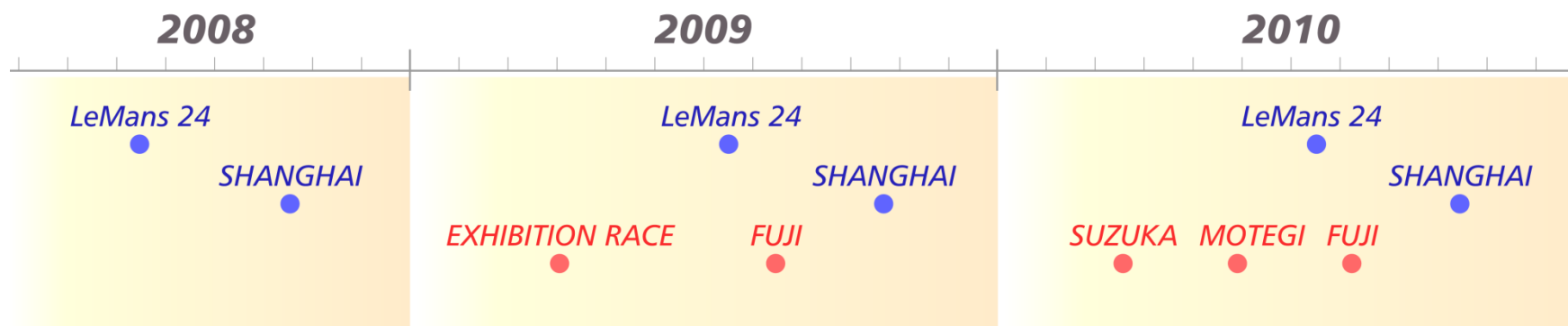
ACO では今年は上海のみ、2009 年は上海と富士のみ開催の予定と聞いています。

我々が最初にこの提案を行った昨年の時点では、手続き上、2009 年より3戦の開催の可能性もありましたが、国内のレースカレンダーも決まっている現状では大変に困難です。

そこで、2009 年のルマン前に、国内のサーキットでオープニングのプレイベントとしてエキジビション・レースを開催し2009 年のルマンを盛り上げるとともに、国内のチームに2010 年からの JLMS への参戦を誘致する戦略はいかがでしょうか？

例えば童夢が、このエキジビションを走り富士を走り上海を走れば、国内のチームにかなりの話題を提供することができますし、かなり参加意欲を高揚させる事が出来ると思います。

OLMS SCHEDULE



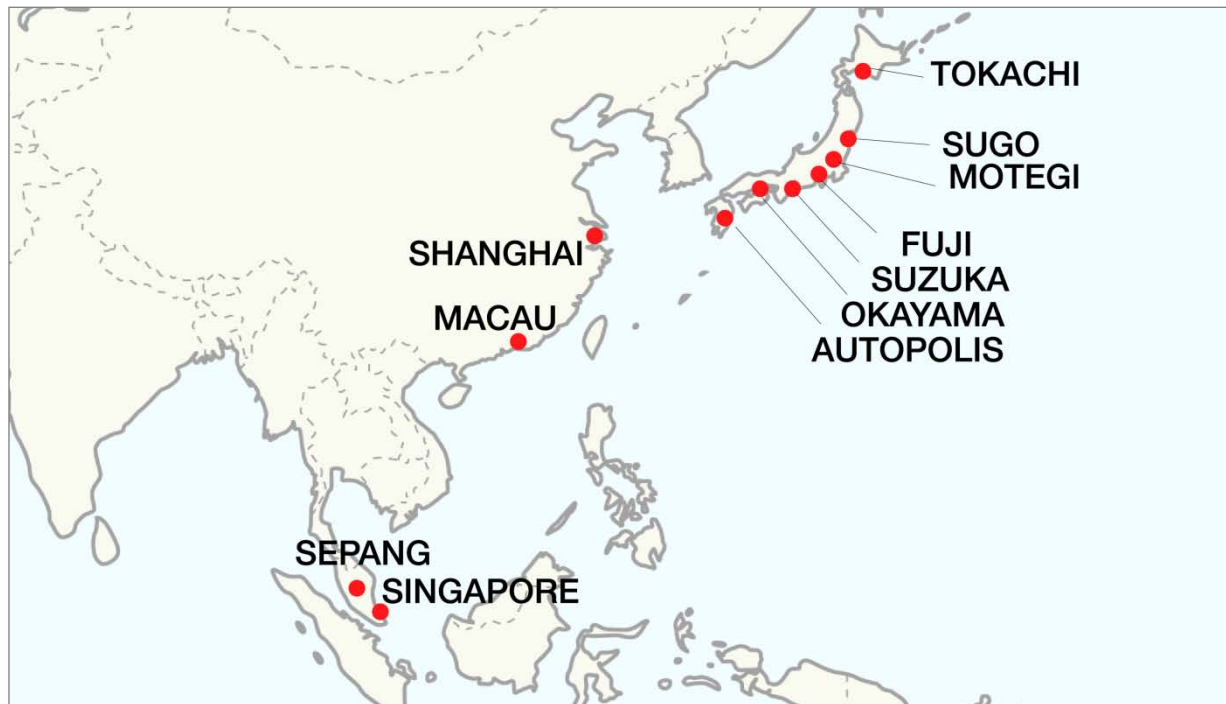
国内事情に明るく、自動車メーカーに広範な人脈を持つパートナーが必要です。

旧 JLMS の失敗の原因はパートナーの人選の誤りに尽きます。また、ACO の人たちが持っているヨーロッパの自動車レース事情の常識は全く日本では通じないでしょう。

日本は、ある意味で非常に特殊な国ですから、どうしても、全てを ACO の流儀でしか進めないし認めないというのなら私たちの出る幕もありませんしお任せするしかありませんが、日本での成功を求めるのなら、もっと、日本の自動車レース事情を熟知し人脈も広い人をパートナーに選ばないと成功はおぼつかないでしょう。

日本（JLMS）を基軸としてOLMSを構築すべきです。

ACO では、上海に続き富士のレースを開催し、その後、徐々にアジアでのルマンレースを拡大していき、将来的に、OLMS を構築したいという話でしたが、日本以外のアジア圏のサーキットは、F1 を開催したい為だけに国策で作られたようなサーキットばかりで、サーキットの活用のための補助金などが支払われるような環境はあるものの、インフラも含め、まだまだトップクラスのレースを開催できるような環境にはありません。しかし、これからの急激な発展の見込めるアジア圏に先鞭を付けておくことは無駄ではないでしょうが、そのためには、マシンの開発が可能で多くの有力チームを擁しアジア圏のレース先進国である日本での JLMS を盤石のものにしてからアジア圏に手を伸ばしていくのが正攻法だと考えます。このあまりにレベルと環境の異なる日本と他のアジア圏の国での LMS の開催を同等に考える事には無理があると思っています。



日本自動車レース工業会と童夢からの提案

私たちは、日本の将来のトップカテゴリーのレースはJLMSしかないと考えています。

だから、ぜひ成功してほしいと思っていますが、旧JMLSから現在までのACOのやり方を観察するに、なかなか計画通りには運ばないのではな
いかと危惧しています。

また、現在の日本には盛況をきわめるSGTCがあり、日本のレース界はこのレースによって支えられていると言っても過言ではありませんから、
このSGTCとの融合を度外視してのJLMSの存在はありません。

つまり、日本のレース事情に精通した人材の確保無くしてJLMSの成功はありえませんから、最優先課題としていただきたいと思います。

